

令和2年度授業改善推進プラン

- (取り組み内容)
- ・毎学期の終わり、自分の担当(各学年ごとに項目だてで)の授業に関して作成する。
 - ・本年度の自己の研修課題に関連し、自己の授業を分析し課題を見いだす。
 - ・見いだされた課題に対し改善プランを立て、指導方法の工夫・改善を図る。
 - ・学期の終わりに検証を行い、来学期につなげていく。

教科名(数学 ①) 教科担任名 村上 将章

★教科・観点について
 期末テスト及び学期の学習状況、生徒の授業アンケートをもとに分析し記入する。<○成果 ▲課題>

観点	1学期			2学期		
	学年	課題分析	具体的な改善策	学年	課題分析(授業改善・プランの1次評価)	1次評価後の具体的な改善策
数学への関心・意欲・態度	1年	○理解をしようとする姿勢ができており、発言も多い。 ▲ある程度考えがまとまってからの発言はあるが、1歩目の思考に対して後ろ向きである。	本日の授業の内容の手立てを伝えるとともに、既習事項をどのように活用するか、どのような課題が出るかの見通しを持たせる。導入では、新たに何を学び、何をできるようになるかを説明する。	1年	○積極的に課題に取り組み、発言も豊かである(標準)	自発的に解答に取り組み姿勢を育む必要があるので、発表をする機会を多く設ける。ペアワーク、グループワーク、全体発表と段階的に相手に発表することで、自分の考えを大切にさせたい。
	2年	○問題演習に積極的に取り組み、教え合い学習にもできている。 ▲全員の前の発言はなかなかできない。		2年	▲授業に集中できず、寝てしまおうになる生徒がいる。(基礎) ▲自分の解答に自信が持てず、正解の板書を行っている生徒がいる。(標準)	
	3年	○間違っても積極的に発言する(基礎) ▲一部の生徒しか発言をしない(標準)		3年	○苦手ながらも取り組み続け、解答を導こうとしている。 ▲諦めて手をつけない生徒がいる。	
数学的な見方や考え方	1年	○既習事項の考え方を問題に活用しようとする。 ▲文章題で解を求めするために必要な手立てを考えることが苦手である。	文章題では、線分図など視覚的なイメージを持たせる。一斉授業で取り扱った問題と似た問題を解くことで、適切な解法を求めめる感覚を養う。	1年	○図形に対する理解が早く、1つの問題を様々な解法で考えることができる。	解答を出すことだけを目的とせず、なぜその解答になったかを自分の言葉でまとめる機会を多く設ける。今後ヒントを与えるなど、問題にあきらめずに取り組む姿勢を育成する。
	2年	○既習事項を他単元に活用することができる(標準) ▲解の吟味ができず、なぜその解法が適切かを考えることができない。		2年	▲証明問題では型にはまらないと書くことができない。	
	3年	○問題ごとに適切な解法を見出すことができる。 ▲図形分野(特に空間図形)に対して、式を考えることが苦手である。		3年	▲文章から立式することはできるが、式を解く際に既習事項を忘れてしまっている。	
数学的な表現・処理	1年	○文字式の計算、方程式の解を求めるときに必要な処理ができる。(標準) ▲単位の変換処理や、道のり・速さ・時間などの処理ができない。(基本)	途中式を丁寧に指導するとともに、どのような計算をしたかを確認する。誤答をした生徒はなぜ誤答をしたかを一緒に考え、見直しの重要性を理解させる。	1年	○基本的な計算や作図の処理能力が高く、発展問題にも柔軟に対応できる。(標準) ▲空間図形への理解や見取り図の作図などが苦手な生徒がいる(基礎)	自分の考えをいきなり全体に発表するのではなく、ペアワーク、グループワークを通して自信をつけさせる。誤った考え方に対して、なぜその考えに至ったのかを考えさせ、誤答に対する不安を取り除く。
	2年	○連立方程式において、分数や小数に対して必要な処理ができる(基本)		2年	▲1度解いた問題の類題であれば素早く処理できるが、既習事項を活用する問題での処理が苦手な生徒がいる。	
	3年	○展開や因数分解ではパターンに分けて丁寧に処理できる。 ▲暗算を中心にしてしまい適切に計算ができない生徒もいる。		3年	○途中式から丁寧に取り組み、計算ミスが減った。	
数量、図形などについての知識・理解	1年	○語句がどんな意味で、どのように用いるのかを理解している(標準) ▲既習事項が定着しない生徒がいる。(基本)	前時までの既習事項の復習をするだけでなく、系統的な教科であることをいかして、単元ごとに繋がりを意識させる。定義や定理の証明を考える機会を大切にしている。	1年	▲復習する時間があまり確保できず、既習事項の定着がはかれなかった。	今後も復習を継続していくが、週末テストや単元テストを実施し、継続的に学習をする環境をつくる。また、1問1問の時間をしっかりととることで、速さよりも正確性を大切にさせたい。
	2年	○図形の性質や、動点による面積の変化を理解することができる。		2年	○定義や図形になるための条件などを理解した生徒が増えた。	
	3年	○「計算しなさい」「解を求めなさい」などの設問に対して適切な解答をすることができる。 ▲解の吟味がなぜその数値になるのかを理解することが苦手な生徒がいる。		3年	▲問題文を見落とす生徒が多く、丁寧さより、速度を重視しがちになっている。	
授業改善の検証方法	生徒による授業アンケートや定期テストの結果を用いる。また、1週間て学んだ内容を1枚のプリントにまとめる週末課題として取り組み、その内容を翌週テストすることで、継続的に復習を行っていく。			週末課題の復習確認テストから生徒の習熟度を把握し、授業改善につなげる。また、個人作業とグループワークを使い分け思考する時間、検証する時間を確立させる。		
研修課題(キャリア教育に関連した教科としての取組)	研修課題に対する教科としての具体的な実践方法	1学期の成果と課題	1学期の結果を踏まえた具体的な実践方法及び追加内容	2学期までの成果と課題	1年間の成果と今後の課題	
主体的な学習を通して、数学的な思考力や表現力を育成するとともに、日常生活や社会への活用を重視し、数学の有用性が実感できる授業を行う。	教え合い学習を始めとして、自分の意見を発表、他人の意見を聞く場面を多く設定する。1つの解法だけでなく、様々な角度から問題に組み、数学の有用性を理解させるとともに、社会でどのように数学が活用されているか、数学的な考え方の大切さを考える機会を設ける。	教え合い学習など、自分の意見を相手に伝え、一緒に問題に取り組んでいく姿勢を作ることができた。相手がどの場面ですすむかを考えることもできていた。ただし、自分で考えずに友達のを最初から頼ろうとする生徒もいるので、数学の有用性を理解させる授業をする必要がある。	・グループ学習の際は自分の意見を述べる時間を設定。 ・発言の量を考慮して、グループを作り、全員が平等に意見を出せるように配慮する。 ・ホワイトボードを活用し、視覚的な情報も利用する。	それぞれが意見をのべる場面を設定するものの、1学期と変わらず、自分から意見を出せない生徒がいる。他人の考えに共感する生徒も増えてはきているが、今後も継続する必要がある。		